特集 行政報告

な産業活動を確保し、地域間の連携を強化する道路網の整備は、本市の大きなビジョンです。

瀬戸内市総合計画の中にも位置づけられている市道南北線道路（仮称）については、事業事前評価が行われ、その結果、道路建設の必要性が認められたところです。今後、測量・設計などの事業を進めていきます。

■石綿管布設替工事

建設改良事業のうち、牛窓町長浜西浦地内や邑久町山田庄・尾張地内の石綿管布設替工事については、設計業務を発注しました。

また、邑久町円張・潤徳・大橋・仁生田（にふた）地内と牛窓町師楽・紺浦・奥浦下地内の公共下水道工事に伴う配水管布設替工事、長船町飯井・牛文・磯上地内の農業集落排水事業に伴う配水管布設替工事についても設計中です。いずれの工事も、設計が完了次第発注していきます。

浄水場関係も老朽施設の修繕や更新を行っていて、安全な水道水の安定供給に努めています。

■公共下水道の管渠整備

牛窓処理区は、浄化センターの土木・建築工事を昨年度に発注済みですが、基礎工事の設計の一部を、慎重に再検討している部分があり、工事に多少の遅れが生じています。しかし、第一期の認可区域に対応する施設の完成は、予定どおり平成19年度末の見込みです。

本年度、住宅地域の管渠整備は、師楽と奥浦の一部を予定しています。

邑久処理区は、浄化センターの用地造成工事を終え、土木・建築工事の一部に間もなく着手する予定です。

本年度の住宅地域の管渠整備は、円張、大橋、仁生田の一部、潤徳の一部を予定しています。

長船中央処理区は、浄化センターと幹線管渠の詳細設計をします。

虫明処理区は、浄化センター処理水の海への放流位置の決定後、浄化センター予定地の選定を検討していきます。

■常備消防と消防団が連携強化

消防行政においても、社会経済情勢の変化や急速に進む技術革新、住民意識の多様化などに的確に対応していくため、新たな対応が求められているところです。更には、消防に対する地域住民の期待は、火災・救急のみならず、東南海・南海地震発生への懸念からますます高まっています。

安全・安心の確保についての住民の期待に消防機関全体として対応すべく、本市の実情を踏まえつつ、消防防災に関する普及啓発、予防活動などのさまざまな分野において、常備消防と消防団が連携強化に努め、一体となって取り組んでいきます。

また、大規模災害時などの緊急事態においては、住民やコミュニティが、住民の避難や救助などに大きな役割を果たすことを踏まえ、地域の自主防災組織の充実・強化に、より一層取り組んでいきます。本年も、大規模な災害時に円滑かつ効果的な活動が行えるよう合同訓練を予定しています。

さて、本年度の消防施設の整備についてですが、主なものは、はしご付き消防自動車の更新です。最新鋭の災害特殊はしご付き消防自動車24メートル級を更新配備することにより、従来以上に効率かつ円滑確実に人命救助や消火活動を行うことができ、地域住民の生命・身体や財産の安全確保の強化が図られることとなります。

ほかに牛窓分駐所の高規格救急車運用に伴う救急消毒室などの増改修工事を予定しています。

次に、現在使用している消防救急無線は、アナログで運用していますが、全国の消防本部は、平成23年5月末を目標にデジタル無線への移行が余儀なくされます。

本年も総合防災訓練が開催される予定です

天井埋め込み式の火災警報機

デジタル化には莫大な設備投資が必要となりますが、現在、県レベルにおいて、消防救急無線のデジタル化、消防通信指令施設の広域・共同運用について検討されています。

最後に住宅防火対策への取り組みですが、6月から新築住宅に住宅用火災警報機の設置が義務付けられました。既存住宅においても、平成23年5月末までに設置することになっていますが、できるだけ早期設置の促進を図っています。

現在行っている住宅防火診断も、特に高齢者の生活安全に直結した極めて重要な施策で、今後も更に拡大推進を図り、住宅防火対策の強化を図っていきます。

■市立病院の改革始まる

4月1日から谷崎病院事業管理者が、就任しました。医療制度改革等の厳しい情勢下ですが、答申にあるように、牛窓・邑久病院の機能分化を進めるべく、事業管理者を中心に、両病院の事務長以上による幹部会議を毎週定例的に行い、幹部の意識統一を図り、同時に全職員の情報共有を目的として、院内広報紙を発刊しました。

また、個別面談やアンケートにより職員の考えを吸収し、全職員が一丸となって、意識改革に取り組むように努めています。

さらに、市民に安全・安心な医療を提供できるような新しい病院のビジョン作りに、全職員で取り組んでいます。

市民病院の情報共有を目的に作られた院内広報紙

教育委員会部局

先に、政府は「規制改革・民間開放推進会議」の最終答申内容を発表しました。答申は「官による配給サービス」から「民による自由な選択・競争」へのシフトを揚げ、農業や医療と並んで「教育」を重点分野の一つに位置付けています。

日本人の良識が疑われる不祥事が、相次いでいることはご承知のとおりです。かつて世界から畏敬の念をもってたたえられてきた日本人の品性は、どこにいってしまったのでしょう。

「お天道様がみている」とか「世間様に顔向けできない」などといった言葉が、よく使われていたころの日本人は、日本の良き時代や伝統を基礎にした社会規範に照らして、自らの行動を律してきたのです。その日本の原点である社会規範を今、改めて見つめ直す必要性を痛感しています。

わたしたちの尊い精神は、国が豊かになるに連れて、次第に希薄になってきました。つまり暖衣飽食の中で、倫理観や道徳観は薄れ「法に触れなければ問題ない」「バレなければ何をやってもよい」といろいろな不祥